



Cisco TelePresence Management Suite Extension for Microsoft Exchange 5.10

ソフトウェア リリース ノート

初版発行 : 2019 年 11 月ソフトウェア

バージョン 5.10

はじめに

変更履歴

表 1 ソフトウェア リリース ノートの変更履歴

日付	変更内容	理由
2019 年 11 月	ソフトウェアのリリース	Cisco TMSXE 5.10.

はじめに

Cisco TelePresence Management Suite Extension for Microsoft Exchange は、Office 365 ならびに Microsoft Exchange 2016、2013 および 2010 と Cisco TelePresence Management Suite を統合しますので、主催者は Outlook クライアントからビデオ会議リソースを予約できるようになります。

4.0.3 より前のバージョンからアップグレードする場合は、Cisco TMS および Cisco TMSXE のアップグレードならびに Cisco TMSXE サービスの無効化の順序について、正確な指示を必ずご覧ください。

5.10の新機能

Microsoft Windows Server 2019、ESXi 6.7、および .Net Framework 4.8 のサポート

Cisco TMSXE は、次の製品をサポートするようになりました。

- Microsoft Windows Server 2019 (64 ビット)
- ESXi 6.7
- .Net Framework 4.8

Office 365 の OAuth (プレビュー機能)

Exchange Online の認証のために、証明書認証やユーザ名とパスワードを使用するのではなく、Office 365 の OAuth を使用するように Cisco TMSXE を任意で設定できます。

：最初にテストしてから、運用環境に展開してください。セットアップまたは設定は TAC によってサポートされます。

BU は機能不全や他の懸念領域を知りたいと考えています。更新プログラムや修正プログラムはすぐに提供されない可能性があります。

注：シスコはプレビュー機能が将来完全にサポートされる機能になることを保証していません。プレビュー機能はフィードバックを基に変更されることがあり、機能は今後変更または削除される可能性があります。

ファイル アクセス時の Cisco TMSXE 構成エラー

場所をローカルのデフォルトにリセットしてから手動で更新するときには、追加の注意が表示されるようになりました。値をデフォルトに再設定すると、以前に構成したクラスタ設定が削除され、場所がローカルのデフォルトにリセットされるので、注意が必要です。構成の場所にアクセスできることを確認してから、その場所を更新してください。

注：不良構成が Cisco TMSXE の展開に悪影響を及ぼす可能性があります。

ロギング パターンの変更

TMSXE-conference-history-log-file.txt と TMSXE-decline-downgrade-log-file.txt のロギング パターンが、日付パターン (YYYYMMDD) からサイズに変わりました。同名の新しいファイルが作成されます。古いログ ファイルは、サフィックス .1 が付いた名前に変更されます。.1 ファイルがすでに存在する場合は、そのファイルの名前は .2 に変更されます。たとえば、TMSXE-conference-history-log-file.txt.1、TMSXE-decline-downgrade-log-file.txt.1 です。この変更により、

2つのファイルのロギングパターンが Cisco TMSXE の他のログと整合します。アップグレードの際に、古いファイル名のログがある場合は、それらの古いログは削除されません。古いログは、クライアントの要件に従って手動で削除またはアーカイブすることをお勧めします。

注：ログファイルのデフォルトの最大数は 20 で、サイズの上限は 5 MB です。ただし、それらは `Log4net.config` の要件に従って構成可能です。

Cisco TMSXE の有用性の向上

Cisco TMSXE 構成ツールで、会議室メールボックスの構成設定（予定表設定）が Exchange Server から .CSV ファイルに取り込まれます。'RequestOutOfPolicy'、'BookInPolicy'、'RequestInPolicy'、'AdditionalResponse' の各設定の値に、改行（CR）、ラインフィールド（LF）、';'といった特殊文字がある場合は、CSV ファイルでは CR は削除され、LF は "" に置き換えられ、';'は ';'に置き換えられます。これにより、.CSV ファイルを簡単な方法で解析できます。たとえば、Microsoft Excel で .CSV ファイルを開くことができます。

Microsoft Exchange で過去の会議が削除されたときに、Cisco TMSXE から主催者にキャンセル メール通知が送信されることはなくなりました。

クラスタ構成のネットワーク共有フォルダに対する権限

クラスタで Cisco TMSXE をインストールする前に、Cisco TMSXE を構成することになるユーザとノードの両方が、読み取り/書き込み権限があるネットワーク共有を使用できるようにする必要があります。Cisco TMSXE のクラスタ アップグレードの場合は、[共有の詳細 (Advanced Sharing)] と [セキュリティ権限 (Security Permissions)] で、Cisco TMSXE を構成することになるユーザとノードのネットワーク共有フォルダに対する権限を [フルコントロール (Full Control)] から [変更可 (Change and Modify allow)] に任意で変更できます。

以前のリリースの機能

以前のリリースの新機能の詳細については、次のリンクを参照してください。

[Cisco TMSXE 5.9](#)

[Cisco TMSXE 5.8](#)

[Cisco TMSXE 5.7](#)

[Cisco TMSXE 5.6](#)

[Cisco TMSXE 5.5](#)

[Cisco TMSXE 5.4](#)

[Cisco TMSXE 5.3](#)

[Cisco TMSXE 5.2](#)

[Cisco TMSXE 5.1](#)

[Cisco TMSXE 5.0](#)

[Cisco TMSXE 4.1](#)

相互運用性の変更

このドキュメントの「[相互運用性 \(6 ページ\)](#)」を必ずご覧ください。そこには、Exchange バージョン サポートの今後の変更と、製品の古いバージョンのサポートに関する重要な情報が記載されています。

解決済みおよび未解決の問題

このリリースで解決済みおよび未解決の問題に関する最新情報を確認するには、次のリンクをご覧ください。
https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&rls=5.10&sb=anfr&bt=custV

Cisco バグ検索ツールにログインした後、ブラウザの表示を更新する必要があります。

制限事項

制限事項	説明
Office 365 を使用する大規模な展開	非常に大規模な展開では、メールの件数に関する Office 365 の制限がユーザの予約の確認と拒否に影響する可能性があります。その値については、Microsoft のドキュメントの「 受信および送信の制限 」を参照してください。
Office 365 を使用して Outlook Web App で進行中の会議のシリーズを編集する	開催中に Office 365 を使用して Outlook Web App でシリーズを編集すると、進行中の会議が終了します。
個人用予定表が自動的に更新されない	Cisco TMSXE は個人用予定表に作用しません。 Cisco TMS で既存の予約が変更されると、Cisco TMSXE の会議室（リソース）の予定表は更新されますが、主催者と参加者の予定表は更新されません。 主催者は、更新された情報を参加者に配信する必要があります。
進行中の会議を延長すると、参加者が削除されることがある	1 人以上の参加者が別の会議にすでにスケジュールされている時間まで進行中の会議を延長すると、これらの参加者は Exchange の会議から自動的に拒否されます。その後、Cisco TMS では会議からその参加者が削除され、拒否メッセージが主催者に送信されます。 この動作は、メールボックスが Microsoft Exchange で競合を許可しないように設定されている場合に想定される動作であり、Cisco TMS または Cisco TMSXE によって発生するわけではありません。リソースごとの件名の設定はサポートされていません。
リソースごとの件名の設定はサポートされていない	Cisco TMSXE に追加するすべての Exchange リソースに対して、次の設定が同じになっていることを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [件名の削除 (Delete the subject)] ■ [件名に主催者の名前を追加する (Add the organizer's name to the subject)] ■ [承諾した会議に設定されたプライベートフラグを削除する (Remove the private flag on an accepted meeting)] これらの設定の方法については、『Cisco TelePresence Management Suite Extension for Microsoft Exchange 導入ガイド』を参照してください。
外部ダイヤル文字列の不一致：フォーム テンプレートを使用した会議の更新	Cisco TMS の定例会議または非定例会議において外部でホストされるダイヤル文字列を Microsoft Outlook から更新することはできません。
外部参加者との会議は、Scheduling Mailbox 機能またはフォーム テンプレートを使用して作成できます。	現在の設計では、Scheduling Mailbox 機能とフォーム テンプレートを用いて 1 つの会議に組み合わせることは推奨されていません。

MS Outlook で [保存 (Save)] をクリックして CMR ハイブリッド会議を作成する。	主催者が作成した CMR ハイブリッドのプライベート会議は、Cisco TMS ではプライベート会議として処理されません。その会議は MS Outlook で保存されるだけです。
CSV ファイルの予定表プロパティ	ResourceDelegates プロパティは .CSV ファイルで使用できません。

相互運用性

このセクションには Exchange バージョン サポートの今後の変更と、製品の古いバージョンのサポートに関する重要な情報が記載されていますので、必ずご覧ください。

アップグレード手順

アップグレードの完全な手順については、『[Cisco TelePresence Management Suite Extension for Microsoft Exchange 導入ガイド \(5.10\)](#)』を参照してください。

前提条件とソフトウェアの依存関係

インプレース アップグレードを実行するには、インストールされているバージョンの Cisco TMSXE が 3.0 以降である必要があります。それより前のバージョンがインストールされている場合は、管理者がデータ移行を伴う完全インストールを実行する必要があります。

移行手順については、『[Cisco TelePresence Management Suite Extension for Microsoft Exchange インストールガイド \(3.0\)](#)』を参照してください。

Cisco TMSXE 5.10 へのアップグレード

Cisco TMS がバージョン 14.4 または 14.4.1 の場合のアップグレード

Cisco TMS および Cisco TMSXE をアップグレードし、前者がバージョン 14.4 または 14.4.1 の場合、次の手順を実行します。

- Cisco TMS をアップグレードする前に、クラスタ化されている場合は両方のノードで、Cisco TMSXE サービスを無効にします。
- Cisco TMS および Cisco TMSXE の両方がすべてのサーバまたはノードでアップグレードされたら、サービスを開始します。

3.1 よりも前のバージョンからアップグレードする場合

- 3.0.x バージョンから Cisco TMSXE をアップグレードした後、Cisco TMS と Exchange リソース メールボックスの間で不一致をクリーンアップするために、起動時に Cisco TMS のすべての予約の再複製が実行されます。Cisco TMS データベースのサイズと予約の数に応じて、この処理が完了するまでに非常に長い時間がかかる場合があるため、アップグレードは時間外に実行することを強くお勧めします。
- Cisco TMSXE 2.x からの移行はサポートされていません。現在 Cisco TMSXE 2.x を実行中のお客様は、Cisco TMSXE の移行に必要なツールを含む、Microsoft Exchange 2010 および Cisco TMSXE 3.0.2 に移行する必要があります。その後、最新バージョンにアップグレードできます。

ご使用になる前に

『Cisco TMSXE 導入ガイド』でインストールとアップグレードの前提条件とベスト プラクティスの全体像を理解することを強くお勧めします。

サーバには必ずローカル管理者としてログインしてください。

インストーラの実行

1. クラスタ化された展開をアップグレードする場合は、両方のノードで Cisco TMSXE Windows サービスを停止します。
2. Windows Update を確認し、Cisco TMSXE がインストールされたサーバ上の .NET Framework にすべての重要な更新をインストールします。 .NET バージョンが 4.7 であることを確認します。 インストール後に操作を求められた場合はサーバをリポートします。
3. サーバ上にインストール ファイルを配置します。
4. Cisco TMSXE インストーラを実行し、エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意して、インストールプロセスを開始します。
5. インストーラは Cisco TMSXE の以前のインストールを検出します。 [アップグレード (Upgrade)] をクリックして続行します。
6. [次へ (Next)] をクリックしてセットアップを開始します。
7. 使用許諾契約書の条項に同意し、[次へ (Next)] をクリックします。
8. インストールに含めるコンポーネントを選択します。
 - TelePresence に WebEx Productivity Tools を使用する場合は、Cisco TMS Booking Service が必要です。

これを有効にした場合、Booking Service をインストールする IIS アプリケーション プールの名前の変更または確認が求められます。 .
 - 冗長環境で Cisco TMSXE をセットアップする場合は、Cisco TMSXE のクラスタ化が必要です。クラスタ化された展開へのアップグレードの詳細については、導入ガイドを参照してください。
 - Performance Monitor を有効にし、標準の Windows ツールを使用して Cisco TMSXE のパフォーマンスをモニタできるようにすることができます。
9. 以前のバージョンの Cisco TMSXE が現在インストールされている場合は、アップグレードを求めるプロンプトが表示されます。
 - [はい (Yes)] をクリックして続行します。アップグレードにより、古いバージョンが削除され、既存の Cisco TMS データベースがアップグレードされます。
 - インストールを中断し、現在のインストールをそのままの状態にしておく場合は [いいえ (No)] をクリックします。
10. アップグレードが完了したら、[終了 (Finish)] をクリックします。
11. 構成ツールを起動します。



シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報と推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティング システムの UCB パブリック ドメイン バージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルとソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスと電話番号は、実際のアドレスと電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図とその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

© 2019 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

シスコの商標

Cisco およびシスコ ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。記載されている第三者機関の商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)

